

論説

新型コロナウイルスとの長い戦いに向かう立ち向かうか。政府、省庁、自治体は「新しい生活様式を」と、大合唱を始めた。

確かに手洗いやうがいやを励行し、密集・密接・密閉の「3密」を避ける大事さを学んだ。しかし、列挙された具体例に戸惑いや違和感を覚える向きも少なくない。



宮武 剛

コロナと新生活

聴覚障害者にとって、マ覚障害者は「ジェスチャー スクを付け、正面向きを避けてコミュニケーションを」で、1〜2層も離れた手話では、表情も読めない。視力障害者は、店の床に貼ったテープに気がつかず適正な距離を取れない。

新しい生活様式とは、有実現への道筋を切りひらけるかどうか。政治や行政は、効なワクチン、治療薬の発・普及までの「当面の生」約160人の半数以上が「新しい生活様式」を国民、

「聞こえなくても話し合わない」で、授業は成り立つのか。さすがに同省も、少人数授業のため小、中学校の教員の大増を図る構えだ。その先に懸案の「30人学級」

感染リスク時は、十分な防護策や危険手当を制度として保障する。再発に備え施設基準等を見直し、スタッフの増員や待遇の改善を図る。そのためには租税と保険料の引き上げという負担増が待ち受ける。

当面の対処か世直しか

「コミュニケーションに不安」、7割以上が「買い物などの生活面で不便」と答えた。視覚障害者は「街なかでも声かけを」「触れるのは情報を得る手段」、聴覚は、「特定警戒」時には、音楽で合唱、リコーダー演奏、密集する運動、近距離での実験・観察は行わないという。「歌わず、触れ合

住民に求めるだけでなく、その実現への条件・環境を整える決意と熱意を示してほしい。

介護や保育や障害者福祉の現場は、もつと深刻だ。心身の両面で寄り添い、支えることが使命の職場ではないか。

みやたけ・ごう NPO法人福祉
フォーラム・ジャパン副会長、学校
法人・社会医学技術学院理事長

「コミュニケーションに不安」、7割以上が「買い物などの生活面で不便」と答えた。視覚障害者は「街なかでも声かけを」「触れるのは情報を得る手段」、聴覚は、「特定警戒」時には、音楽で合唱、リコーダー演奏、密集する運動、近距離での実験・観察は行わないという。「歌わず、触れ合

住民に求めるだけでなく、その実現への条件・環境を整える決意と熱意を示してほしい。

介護や保育や障害者福祉の現場は、もつと深刻だ。心身の両面で寄り添い、支えることが使命の職場ではないか。

(本紙論説委員)